

電気通信大学 平成16年度シラバス

授業科目名	露語運用演習		
英文授業科目名	Intermediate Practical Russian		
開講年度	2004年度	開講年次	2年次
開講学期	4学期	開講コース・課程	昼間コース
授業の方法		単位数	2
科目区分	総合文化科目-言語文化科目-言語文化演習科目		
開講学科・専攻	情報通信工学科 情報工学科 電子工学科 量子・物質工学科 知能機械工学科 システム工学科 人間コミュニケーション学科		
担当教官名	三浦 清美		
居室	東1-508		

公開E-Mail	授業関連Webページ
miura@bunka.uec.ac.jp	

<b>【主題および達成目標】</b>
ロシア語初級文法の完成。 ロシア人が書いたロシア語のテキストを辞書を使いながら読めるようになる。 ロシア語表現を使って簡単な会話ができる。

<b>【前もって履修しておくべき科目】</b>
露語第一、露語第二。

<b>【前もって履修しておくことが望ましい科目】</b>
選択露語第一、選択露語第二。

<b>【教科書等】</b>
教科書：桑野隆著 『初めてのロシア語』（白水社）、狩野亨著 新ロシア語教程（ナウカ） 辞書：米重文樹『パスポート初級露和辞典』（白水社）  そのほか、プリントを配布する。

【授業内容とその進め方】

必須項目。

注1．授業内容と、授業の進め方は、学生がわかるようになっていれば、必ずしも各回ごとに分離して記述する必要はありません。

注2．下記の例2において、第N回は第N週を意味するものではありません。学生が回を追ってどのような内容が授業されるかがわかり、それを見て予習などができるようにすることが目的なので、学生が予め授業内容がわかるならば(例1)のように包括的な説明と主要なトピックスを示す方法もあります。

(例1)

(a) 授業内容

この授業では、～の説明からスタートし、既に～学の知識を用いて、～の解析と、基本的な～の設計について講義を行います。対象とする主な項目は以下の通りです。

- ・
- ・
- ・

(例2)

(a) 授業内容

第1回：

第2～3回：

第4～5回：

第6～8回：

第9回： 中間試験

第10～11回：

第12～13回：

第14回：

第15回： 期末試験

(b) 授業の進め方：

(例)

この分野は、自分で実際に解析したり、設計してみることで、はじめて深く理解することができる。そのため、講義以外に演習および宿題を課す。授業中にも演習を行うので、レポート用紙、電卓を必ず持参すること。

【成績評価方法及び評価基準(最低達成基準を含む)】

- 1．予習をした上できちんと出席をする。
- 2．露和時点を使うことになれる。
- 3．動詞変化(現在、過去、未来)、名詞格変化ができる。

## 電気通信大学 平成16年度シラバス

### 【オフィスアワー：授業相談】

適宜相談に応じるが、電話などで事前にアポイントを取ること。  
金曜日 18:00～19:30

### 【学生へのメッセージ】

初級、中級の語学はなかばスポーツです。声を出すことが重要です。

### 【その他】